

## 分娩前給与飼料の段階的増量による乳牛の周産期病予防

分娩3週間前から分娩直前まで高エネルギー飼料の給与量を段階的に増やすことにより、同期間の体重減少率を軽減化させ、乳牛の周産期病予防が可能である。

表1 分娩前1か月間の体重減少率

栄養状態	産次	頭数	体重減少率	
対照群	過肥	3産	11	-7.3±4.2
		2産	3	-7.3±3.0
	適正	3産	6	-3.4±3.6
		2産	4	-1.6±2.8
試験群	過肥	3産	8	-2.0±2.6
		2産	4	-1.2±2.8
	適正	3産	12	-1.6±3.0
		2産	16	-0.4±2.1

高エネルギー飼料を段階的に増やしながらか与した試験群の分娩前1か月間の体重減少率（妊娠に伴う増体重を除く）は、同じ飼料を定量的に給与した対照群と較べて軽減化した。

過肥：BCSが概ね4.25以上 栄養状態：乾乳開始時期

試験群では高エネルギー飼料にTMR(TDN75%)を用い、分娩3週間前の5kg/日から分娩直前の12kgまで増量した。

表2 周産期病の発生率

栄養状態	産次	頭数	発生頭数	周産期病の内容				
				第四胃変異	ケトosis	起立不能	胎盤停滞	
対照群	過肥	3産	11	9(82)	3(27)	3(27)	1(9)	2(18)
		2産	3	2(67)		2(67)		
	適正	3産	6	5(83)	2(33)	2(33)	1(17)	
		2産	4	1(25)		1(25)		
試験群	過肥	3産	8	3(38)	1(13)	1(13)		1(13)
		2産	4	0(0)				
	適正	3産	12	2(17)		2(17)		
		2産	16	1(6)				1(6)

栄養状態：乾乳開始時期 ( )内数値：%

分娩前1か月間の体重減少率が軽減化した試験群における周産期病の発生率は、対照群と比べて著しく減少した。この周産期病予防効果は、適正な栄養状態で乾乳開始時期を迎えさせることにより、さらに高まった。